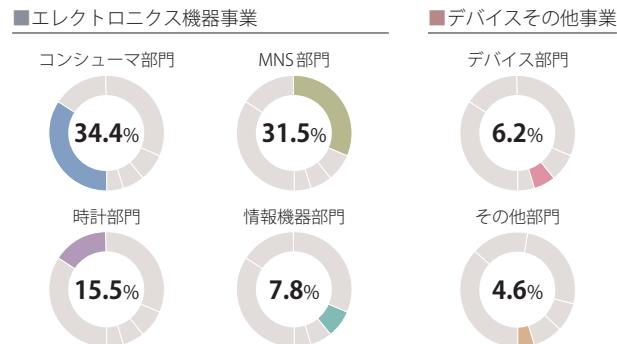
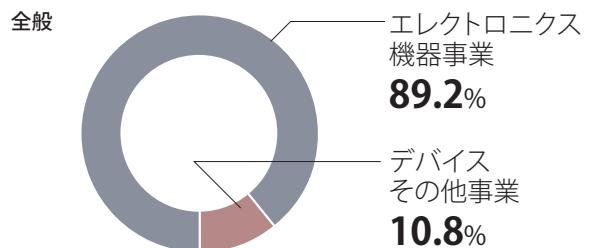


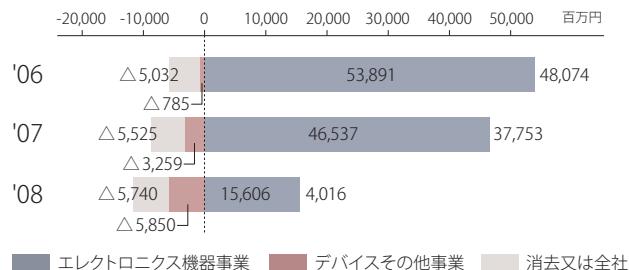
部門別の概況(連結)

各部門別の概況をご報告します。

売上高の部門別構成比(通期)

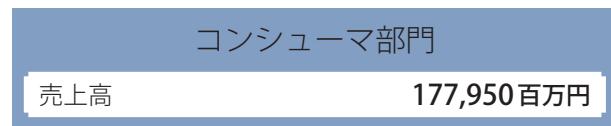


営業利益の概況(通期)

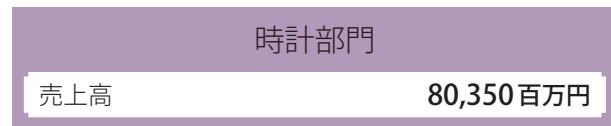
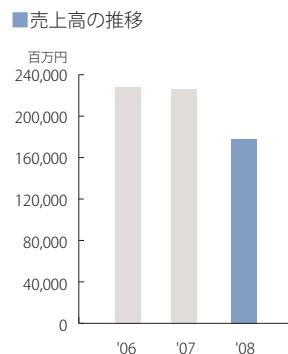


エレクトロニクス機器事業

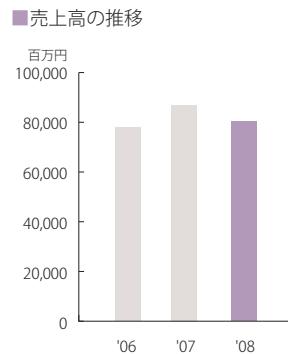
売上高は、4,618億円(前期比12.3%減)となりました。



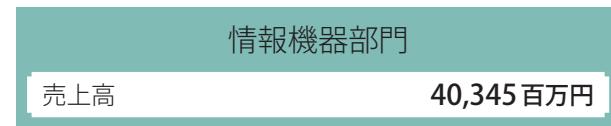
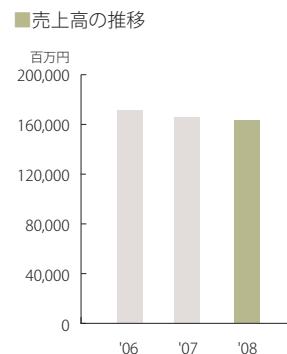
デジタルカメラは市場価格下落や欧州通貨安の影響から減収となりましたが、最終四半期に世界初の動画と静止画を合成できる「ダイナミックフォト」や30枚/秒の超高速連写などの差別化機能を搭載した新モデルを投入、世界で販促活動に注力しました。電子辞書は高付加価値モデルが好調に推移し、シェアNo.1を維持しました。



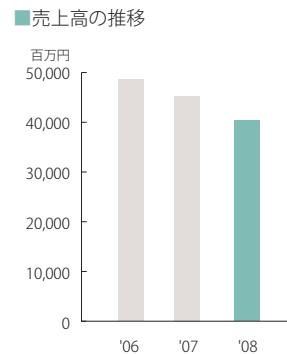
非電波時計が減収となった一方で、電波時計は、フルメタル仕様の高級ブランドとして定着した「OCEANUS」、世界的ブランド「G-SHOCK」、スポーティなメタルアナログウォッチとして世界規模で投入を開始した「EDIFICE」など、世界6局標準電波対応の高付加価値モデルの伸長により好調に推移しました。



携帯電話は、au向けに8.1メガカメラ搭載のスタイリッシュな「EXILIMケータイ W63CA」や当下期より投入を開始したソフトバンクモバイル向けにEXILIMケータイ「SoftBank 930CA」などを投入。また、北米・ベライゾンワイヤレス社向けタフネスケータイの販売は引き続き好調に推移しました。



売上高は、403億円となりました。

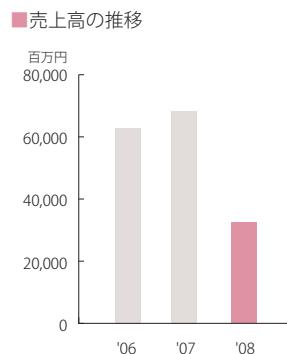


デバイスその他事業

売上高は、561億円(前期比41.7%減)となりました。



デバイス事業は、TFT液晶が世界的なデジタルカメラや携帯電話に対する需要鈍化と競争激化による単価下落の影響を受けたこと、また、カシオマイクロナクス(株)が当期に実施した不採算事業譲渡により減収となりました。



売上高は、237億円となりました。

